

虫が見える

—幻視への対応

認知症

しち-はち-きゅう

789

みんなであそんで

試して

虫が見える

認太郎…主人公(認知症)



認太…息子

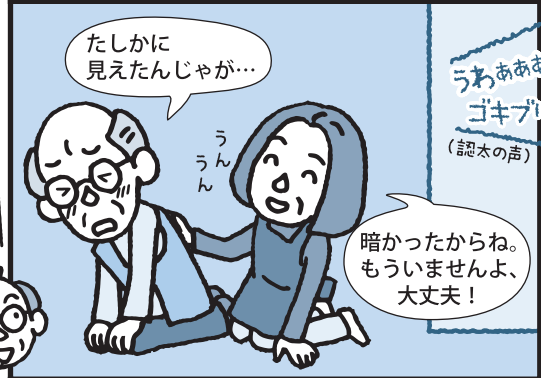
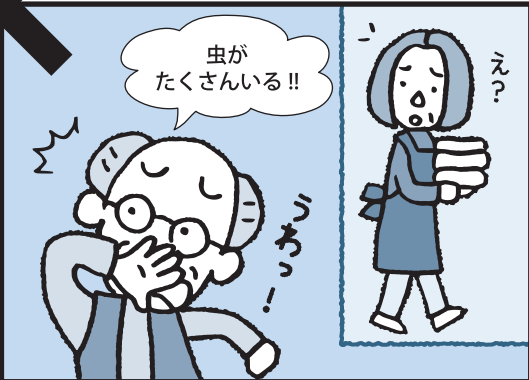


知子…嫁



認左衛門

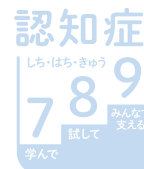
…認太郎一家のご先祖
守り神、お助けマン



*いつもうまくいくわけではありません。

虫が見える

—幻視への対応



行動・心理症状（人により出方が異なる）：幻視

行動・心理症状と呼ばれる症状は個人や認知症の原因疾患によって出方が変わります。

幻視は、本人にとってははっきりと見えているのが特徴で、「あそこに黒い服を着た子供がいるだろう?」とか「虫が這っているでしょ?」など、かなり具体的な症状を訴えてきます。

「そんなことないでしょ」と否定すると、本人には「見えている」のでますます混乱し、興奮したり、落ち込むことになってしまいます。「わかってもらえない」という思いが募り、症状の悪化などにつながってしまいますので、基本は否定せず「私には見えないけれど、お父さんには見えているのね」「見えているとつらいね」など、そのつらさを理解する（または、受け入れる）ことが大切です。

このケースのポイント

どうすればいい?

対応法 ①

薄暗い場所だと、違う物に見間違えやすいので、まずは部屋を明るくしてみましょう。



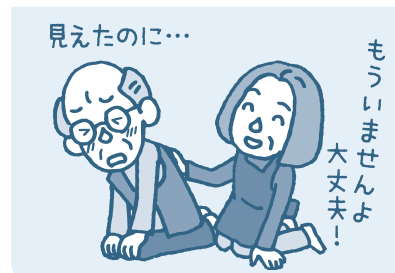
対応法 ②

環境整備も大切です。本人にとっての幻視の対象になりやすい物は置かないようにしましょう。



対応法 ③

訴えを受け止め、恐がっていたら、「私がいるから大丈夫ですよ」と安心させてあげましょう。



行動・心理症状は個人によって出方が異なるのが特徴で、その方の生活歴や生活環境、認知症の原因疾患などによっても変わってきます。

幻視については「レビー小体型認知症」ではごく初期からしばしばみられます。肯定しすぎると幻視症状が固定するリスクもあるので、否定はせずに「つらさ」を受け止めてあげてください。一緒に近くに寄ってみて触ろうとすると、それだけで幻視が消えたり、実際には触れないので「いないのかな」と認識できることもあります。本人の感情に寄り添いながら、不安や恐さを理解してあげるのが良いでしょう。

不安、恐さや妄想が強い時にはお薬による治療について医師と相談してください。また、原因の病気によって治療方法も異なります。この症例に限らず、早めに専門医に受診することをお勧めします。

—— 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 水上 勝義

医師からのアドバイス

